

特別許可申し出中に收容

国

ちがひがして

在留資格なき無国籍者

①

同居人たちの寝息を聞きながら、神奈川県内のベトナム難民2世の男性(48)は留置場の天井を見つめていた。警視庁に逮捕されてから数日後の夜。これからどうなるのか考え、不安で寝られなくなった。「日本に来なければよかった。だが、そんな夜が7カ月続くと、その時は想像もしなかった。

「旅券はありますか。リュックサックの中を見てください」。09年5月、東京・秋葉原駅で私服警官3人に声を掛けられた。男性はタイから91年に不法入国した無国籍者。鉄筋工などをしていて、母親の病気で一時帰国を決定し、08年に東京入国管理局へ出頭し

た。在留特別許可(在特)を願ひ出て、外国人登録も済ませていた。

「電化製品を買いに来ただけなのに」。戸惑ううちに周りを囲まれ、不法滞在の容疑で逮捕され

一生ごっこ? 眠れぬ夜

と男性に告げた。だが無き続き頑張ってください。入管の指示は素っ

次に「タイ政府に帰国できるよう頼んでみては」と持ちかけてきた。タイの妹が政府などに働きかけが無駄だった。「引も見られた。だが、夜に

た。「入管に出頭した自分がなぜ?」。外登証を示しても効果はなく、警察署の留置場に入れられた。

署にいた約20日間は「早く入管へ送ってくれ」と願った。在特を審査中の入管なら釈放してくれる。だが署から移った東京都内の入管施設に

3カ月いた後、今度は茨城県内の施設に收容された。入管は当初、「ベトナムがタイに退去させる」



男性が警官に声を掛けられた秋葉原駅構内。突然のことだった—東京都千代田区で

なると不安で仕方ない。睡眠薬をもらって寝られるようにはなったが、不安は消えない。自分は一

生この中なのか。入管から釈放されたのは、街がクリスマス準備にぎわう12月下旬だった。

「あなたは受け入れる国はないので仮放免する。どうするか自分で考えてください」。男性が入管から釈放されたのは、街がクリスマス準備にぎわう12月下旬だった。

は、入管は「退去強制令書」を発付する。令書では「退去が可能になるまで收容できる」とされ、期限はない。難民支援協会(東京)の鹿島美穂子広報部長は「無国籍など自由を得るために、男性はできることを探している。【山口知、写真も】」

問題だ。在特を願ひ出ている人を收容するなど基準もよく分からない。法務省以外の機関への異議申し立て制度などをつく

るべきだ」と指摘する。この連載へのご意見、情報をお寄せください。ファクスは052・527・8273、Eメールは maltom@main.co.jp